

！ 地震・津波から
身を守るポイント

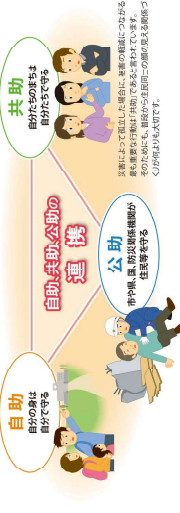
南海トラフ巨大地震が発生したとき、田辺市では最大震度7が予想されています。

津波に関する警報と注意報

津波による災害の発生が予想される場合には、気象庁より「大津波警報」「津波警報」「津波注意報」が発せられます。

 一人ひとりが行う
自分自身の防災活動

防災・減災のキーワードとして、「自衛」「共助」「公助」という言葉がよく使われます。自衛とは「自分の身は自分で守る」こと、共助とは「家族・近所でお互いに助け合い地域を守る」ことを指します。また、公助とは「公的機関からの救助や支援」を指しています。災害の発生を完全に予見し防ぐことはできませんが、自衛、共助、公助が連携し、効果的に機能することで、被害を減らすことが可能となります。



地震によって建物が倒壊しない場合でも、大きな家具の転倒やガラスの飛散などにより、ケガをしたり、閉じ込められたりするおそれがあるので、今すぐ地震対策をしよう。

[illegible]

自主防災組織の役割

自主防災組織とは、「自分たちのまちは自分たちで守る」という、地域住民の意識に基づき、結成される防災組織のことです。自主防災組織は、災害発生時に、お互いの身を守るため、平時からの防災訓練を含めた防災活動を行います。災害時に効果的な活動ができるよう、住民一人ひとりが防災に関する正しい知識を共有し、各家庭で災害に備えるとともに、地域住民が一体となり防災活動へ取り組むことが重要です。

日常の活動例

- [illegible]

心十一世一松十由三の葉外郎重江維業

避難行動要支援者とは、一般に高齢者や障がい者、乳幼児や妊産婦、日本語を十分理解できない外国人など、災害発生時の避難に時間的・肉体的な支度を十分行っていない方々です。地域で協力し合いながら、近所の要支援者の安全を確認や避難場所へ誘導するなどの役割を担います。

[illegible]

避難経路を想定して
マイマップを作ろう

マイマップの作り方

地震はいつ起こるかわかりません。いろんな場面において地震や津波が起きた場合に備えて、家族みんなの避難先（家、山、高台、公園など一時的に身を守るための緊急避難する場所）を確認しておきましょう。

また、表面の津波避難マップに、自分が避難する場合は想定した避難情報を書き加えて、より具体的な避難行動をイメージできるようにしておきましょう。

マイマップの記入例(表面:津波避難マップ)

- ①自宅や学校、勤務先等を手チェック
まず、津波避難マップであなたの自宅や学校、勤務先を確かめて、予備にされている被害の有無(津波浸水想定区域に入っている、危険箇所がある等)を確認しましょう。
- ②避難先と避難経路を決める
次に、自宅と予備避難先を確認して、避難先までの経路を考えてみましょう。

[illegible]

跡の浦地区 における主な避難場所と避難経路

日頃からの備えが大切
非常持ち出し品・連絡方法など

準備品の出し持ち

災害が発生したときは、すぐに避難しなければいけません。避難する場合には、リュックサックなどに必需品をまとめ、持ち出しやすい場所に保管しておきましょう。

[illegible][illegible]